

きらきらみちのく号車内は莫菴敷き



きらきらみちのく号車内売店

下北駅構内のねぶた金魚



東北新幹線を三沢で降り、「きらきらみちのく号」に乗り換えて北上すると、途中海と見間違う小川原湖を右手に見る。さらに陸奥湾沿いに入ると左手に陸奥湾の穏やかな水面を見ながらむつ市へ向かう。

下北駅下車。貸切バスで恐山へ向かう。

車窓には、紅ウツギ、栗の花、など梅雨どきの花が見える。

恐山街道を走っていると道端に白布でアネサ被りをした石地蔵が多く見られるようになった。霊山恐山に近づいた証拠だろうか。

ヒバ山の裾に水飲み場がある。冷水（ひやみず）と言うそうだ。徒歩で霊山へお参りする信者のために引かれた笕水である。

背後のヒバ山から鋭い声の蝉が鳴いている。松蟬だろう。太い棒のような鳴き声である。水は甘く美味しい。

万緑の中を走るバスが急に視界の開けたところに出る。宇曾利湖の湖畔に出た。硫黄の匂いがする。赤い太鼓橋がありこれがこの世とあの世をつ



冷水（ひやみず）で喉を潤す



恐山への途中 冷水（ひやみず）

なぐ三途の川にかかる橋だという。バスを降りて橋を渡る。橋の袂の草むらに糸とんぼが群れている。硫気をものともせずに生き継いでいるのだから。湖の中には杭が二列中心に向かって打ち込まれている。地獄への入り口に通じているのだろうか。もうすぐ地獄の釜の蓋の開く日である。恐山大祭は七月二十日の日だそうで、私たちは一週間早く来たことになる。

恐山霊場は、今を遡ること一二〇〇年前、慈覚大師円仁が入唐求法中の一夜、霊夢に聖僧現れ、「汝、国に帰り、東方行程三十余日の所に至れば霊山あり。地藏尊一体を刻し、その地に仏道をひろめよ。」とのお告げをうける。



三途の川の端



三途の川の端たもと

大師直ちに帰国し、靈山を探して諸国を行脚。辛苦の巡錫を重ねてこの地に至り、山川大地まさに靈山なりし所がここ恐山である。

恐山は、下北半島の中央に聳える靈峰である。この地は、宇曾利湖と白砂の大地を中心に、地勢恰も蓮華八葉の形状をなし、釜臥山、大尽山、小尽山、北国山、屏風山、剣の山、地藏山、鶏頭山の八峰に囲まれ、その中に地獄の形相を現す数一〇八。転ずれば風光明媚浄土の相。全てが靈夢と符号するので、大師自ら御丈六尺三寸の地藏を刻し、一字を建立後本尊として安置し、仏道教化に精進されたのである。(この項写し)

一言で恐山と言うが、別称「恐山菩提寺」で本尊は延命地藏菩薩。本坊は曹洞宗円通寺と言う。恐山の目玉はなんと言っても「イタコの口寄せ」。私も父と母の声を聞きたかったが、現場に来てなんとなく頼む気がしなくなつた。一行の塚本清が父母をおろしてもらつた。十五分で三千円であつた。

長い数珠をまさぐって語りかけてくれる。炎天を避けるために一人一人一坪ほどの日覆のついた

テント小屋を持っている。十ほどの小屋が並んでいた。

現在、むつ下北地方にはイタコはいなくて、恐山にいるイタコは津軽、八戸地方などからやってくる



山門からのぞく霊場



一坪ほどのイタコ小屋



塚本氏とイタコ



今も噴出している硫黄「アツイ・・・と洋酔氏」



霊場には宿坊があり温泉
に入浴もできる。
むつ市内に帰ってから
句会。句会の後は皆でかた
づけをして会食した。

七月十七日

今日は海の日である。ビジネスホテルの目覚めはなかなかよいものだ。隣室の騒音がないのが一番。朝食は和風弁当のセット。八五〇円だがなかなか美味しい。

八時半に出発して尻屋岬の「寒立馬」、大間の灯台、佐井の仏が浦を見物に出かける。

案内はむつ市在住の畑中とほる氏。小学校校長経験者だけあって、訥々とした話し振りながらユニフォームがある。

下北は原子力で支えられている村が多い。また風力発電の実験地でもある。風が強いのである。大きな風車がいくつも見える。



とほる氏の案内



尻屋岬灯台の周辺に放牧の馬が悠々と草を食んでいる。「寒立馬」として有名である。今は地元有志が冬でも餌を与えに通うそうだがかつては馬はまさに酷寒の地で生き抜いてきた。子馬も生まれ三十頭ほどここに見える。

馬はおとなしく。触れることができる。触れてア
タタカイと声を上げる女性たち。

曇天ではあるが風もなく穏やかな本州最果ての
尻屋岬であった。
鋸草（別名・羽衣草）を見る。また、黄色の花
の野カンゾウが目まぶしい。



バスは下北半島の斧の頭の部分を東から西へ走
り抜ける。右手に津軽海峡を見ながら大間へ行く。
途中「下風呂」を通過。ここは四十年前に止まっ
たところ。

大間は今ではマグロの基地として有名。猟奇は
冬なので今はイカ釣りの時期。町は小さな観光の
町になっている。灯台は白黒のまだら模様をして
いる。海岸の小石を拾うもの、沖のかもめや鶴に
声をかけるもの、軒先に干してある昆布やフノリ



を眺めるもの、最果ての町でのんびりと時間を過ごす。土産物屋の軒先にある拡声器の上に燕が巣をつくって雛がにぎやかに鳴いている。

佐井へ行く途中に原子力発電所の建設現場がある。港湾の建設から始まる大きなプロジェクトである。原発の建設でこの地方はこれから数十年は豊かに暮らして行けるであろう。

佐井の港で昼食を取り（海胆とイクラ丼・二三分）
〇〇円）船で仏が浦へ向かう。高速船で片道三十



仏が浦に近づくと白い岩肌が迫ってくる



仏が浦へやはり四十年前に渡ったことがある。焼玉エンジンの小船であった。帰路に船頭が仕掛けておいた延縄に鰯がかかっていたのを覚えていた。八月の暑い日であった。

仏が浦はそれでもそれほど俗化していなくて船着場ただ船の乗り降りに安全なように波止ができていただけで、上陸すると岩陰にトイレなどの建物があるだけで景観が保全されていたのはよかった。



仏が浦の奇岩

句会から抜粋

口寄せの莫蔭にころがるまくは瓜
目瞑れば蝉の声湧く恐山
口寄せに涙の男夏旺ん

棚山 波朗

不老水の源みせぬ夏の山
塔婆堂に塔婆を重ね夏旺ん

畑中とほる

口寄せのいたこに小さき扇風機
風ことに涼し山門くぐるとき

池内けい吾

糸とんぼ三途の川を行き来せり

墓目 良雨

万緑を結界として恐山
松蝉を聞くみちのくの盆の入り

荒川 優子

涼風も硫黄の匂ひ恐山

口寄せの小屋に置かれしメロンかな
生江 通子

いたこ座す間口は五尺炎暑かな
恐山背山滴りあたりけり

★ ★ ★ (以下五十首順)

数珠たぐるイタコの腕の玉の汗

霊場の地獄をめぐる白日傘

夏の果顔を寄せ合ふイタコ小屋

霊山の精霊とんぼまつはり来

万緑の底に火口湖ひかりをり

花莫産を一枚ひろげ口寄せす

硫気噴く地獄の山やほととぎす

釜臥山の裾の広さや陸奥の夏

結願の白き襷や秋近し

西日射す口寄せ小屋に硫黄の香

花莫産に念珠手繰りしいたこかな

小石積む青嶺まぢかに恐山

袖口 満

飯田 貢一

飯田眞理子

鴨狩ときせ

倉林 美保

畔柳 海村

児玉真知子

やませ吹く水子供養の風車

口寄せに幾度も拭ふ顔の汗

蟻蝶や津軽海峡どんよりと

蜻蛉追ひ三途の川を往き還り

陸奥湾に灯台の歌夏の霧

口寄せに耳そばだてる梅雨晴間

老鶯の山のなだるる陸奥の海

炎ゆる目の硫黄に煤くみたま石

炎天や硫黄の音吐く恐山

口寄せの巫女にメロンの小さかり

日盛りやいたこの語り母に似て

白鷺の降りて顔上ぐ草刈女

恐山賽の河原の赤とんぼ

玫瑰や硫黄の匂ふ太鼓橋

島谷 高水

島貫 和子

杉阪 大和

高井美智子

武井まゆみ

塚本 清

坪井 研治

中島 八起

風死すや蓮華八峯炎天下

長久保恵美

汗の数珠膝にいたこの口説きかな

奈良 英子

精霊とんぼ三途の川にむつみ居り

藤野 濤子

老鶯やむつ湾に雲たれこめ来

真木 朝実

中ほどにきてふくらめり蔓手毬

松川 洋酔

結界に水ほとばしる蔓紫陽花

山崎 赤秋

唾蟬の岩を這ひゐる恐山

下北は今が盛りの栗の花

三途川行きつ戻りつ糸蜻蛉

七月十七日（月）海の日

大間崎を出発したところで、会長の意を受けて幹事が「海の日になむ句を一句出すように」とのアナウンスをする。と、バスの中、たちまち静まる。畔柳海村さんが呟いて曰く。《お喋り止め

るに刃物はいらぬ「句出し」の一言あれば良い》
締め切りは昼食後に設定したが、美味でいい値
段の《生うに・いくら井》をしつかりと味わえた
かしら。
選者七人が選句。結果は次のとおり。

波畑池良満 海の日や岬馬の仔が乳せりせる

倉林 美保

波畑池満 海の日馬のすり寄る尻屋崎

児玉真知子

畑池良 海の日海を背にして綱繕ふ

藤野 濤子

波畑荒 海の日ひたすら草喰む岬馬

高井美智子

池満生 海の日蝦夷は遙かに在りにけり

武井まゆみ

池生 海の日仔馬たはむる尻屋崎

棚山 波朗

波畑 海の日海女の出入りすほまち畑

臺目 良雨

荒生 海の日に放し馬追ふ尻屋崎

松川 洋酔

下北吟行会

平成十八年八月十五日作成

墓目良雨

荒	波	畑	生	良	良	良	畑池	波生
海の日の草食む音や岬馬	海の日や北端の地にバスの列	海の日や蜃が一人で綱つくろふ	海の日や少年海へ石投げる	海の日の下北の海なめてみる	海の日や北端の地にバスの列	海の日や岬に放つ野馬駆くる	海の日や岬に放つ野馬駆くる	海の日や岬に放つ野馬駆くる
山崎 赤秋	長久保恵美	奈良 英子	生江 通子	真木 朝実	島谷 高水	島谷 高水	島谷 高水	鴨狩ときせ
	中島 八起							

(句会整理 武井・山崎記)

印刷・製本 青蛙堂
 千代田区神田小川町三丁目十番地二
 ユーラン社内
 電話 〇三・三二九一・二六〇四
 ファックス 〇三・三二九一・二二二〇



